

CONTENTS

文化人の本音 河合肇雄文化庁長官対談 第37回 ゲスト 平野拓夫さん●金沢美術工芸大学長

裾をひろくしないと芸術なんか生まれてきません4

長官コラム 文化庁の抜穴9

いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート 37	
萩博物館(山口県)	22
芸術文化の風 1	
アートはどこにある?(野口玲一)	23
著作権Q&A 『著作権なるほど質問箱』から 1	
どうすれば著作権が取得できるの?	24
文化交流使の活動報告 13	
宮田まゆみ(雅楽・笙演奏家)	25
伝建地区を見守る人々 伝建地時記 13	
伝建地区を火から守る一斉放水(京都府美山町)	26
史跡を楽しむ 1	
特別史跡五稜郭跡	28
言葉をつめる 1	
言葉の気配り	29
地域からの「文化力」発信 1	
横浜市民の力による演劇とまちの活性化	
演劇の花開くまちを目指して	30
文化人 in 関西 関西元氣文化圏で活躍する人々 1	
京のまちのファンリレーター 青柳良明さん(京都府)	32
風を呼ぼう、わが町に 登録有形文化財建造物との歩み 13	
醤の郷のまちづくり 伝統産業と文化財建造物	33
日本の伝統美と技を守る人々 選定保存技術保存団体編 7	
芋麻糸手績み(富古芋麻糸手績み保存会)	34
国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法 文化財鑑賞の手引き 25	
高山寺の馬の彫刻	35
日韓友誼年事業紹介 1	
日韓交流年開幕式を盛大に開催	36
文化庁月報	
平成16年度総目次	37
奈良国立博物館	
特別陳列 宿院仏師 ―戦国時代の奈良仏師―	40
東京国立近代美術館工芸館	
企画展 伊砂利彦 型染の美	41
京都国立近代美術館	
20世紀陶芸界の鬼才 加守田章二展	42
国立西洋美術館	
マックス・クリンガー版画展	
「イヴと未来」「ある生涯」「ある愛」	43
国立国際美術館	
企画展 シュテファン・バルケンホール	
木の彫刻とレリーフ	44

文化と行政	寄稿	平成一七年度の文化庁重点施策	施策紹介
文化行政の一翼を担って			
文化財の国際協力			
鈴木規夫	津田和明	高階秀爾	
20	18	16	10

特集 平成一七年度の文化行政の重点的な取組

今月の
表紙

平成16年度[第8回]文化庁メディア芸術祭賞マンガ部門大賞

「夕凧の街 桜の国」こうの史代

©Fumiyo Kouno/双葉社

新国立劇場スポットライト45

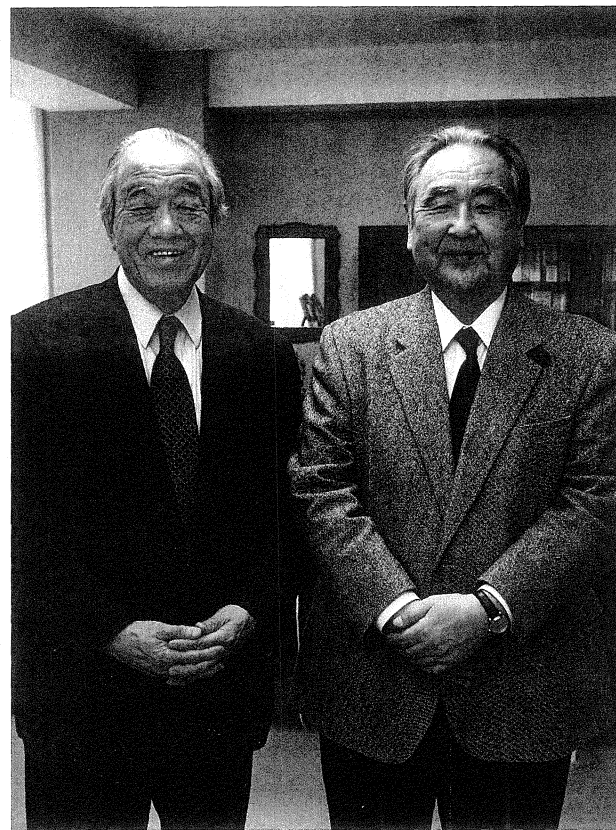
5月の国立劇場46

芸術文化振興基金ニュース47

題字デザイン 桑山弥三郎

イラスト/須田博行

裾をひろくしないと 芸術なんか生まれてきません



金沢と文化

河合 金沢は文化の豊かな土地で、いろんなものがありますけど、先生は金沢におられていかがですか。

平野 私はもととあまり文化度が高くはない人間だったもので、金沢に行って、女性横笛、鼓、謡とか、男は宝生流の謡とか、そういうものを何かやっているのびびくりしました。

河合 金沢は人間の関係を築く上で、街の大きさや人口密度がちょうどいいと、先生は言っておられますが、どういふことなんですか。

平野 東京では知人と何年ぶりかで会っても次に会うのに何年もたっちゃうんです。金沢の場合は、「今度、またね」と言っ

た、時間的に必ず行き合う。つまり、人の出会いがあっても、距離とか時間が短くてすむものですから、会いたいなとか知りたいなという感性、欲求が冷めないうちに会えるんです。金沢の人は、住んでいる人のアイデンティティがある。自分の文化の軸ができているから、人との出会いによっていろいろなものを吸収はするけれども、自分自身がなくならない。高める方向にエネルギーがいくんです。

河合 日本各地域がそうになると、おもしろいものが出てきて、日本の文化を高める根本になりますね。

平野 ただし、たまに、アイデンティティが誤解されたり行き過ぎたりしますと、排他的になる危険もありますね。

河合 そうそう、それはだめなんです。私はだから、「開かれたアイデンティティ」という言葉を使っているんです。

平野 寛容さを備えた人は少しずつ増えてきているなという感じがしますね。

河合 大学と地域のつながりの一つに生涯学習がありますね。

平野 金沢では、生涯学習という言葉ができる前から、下町の子どもはみんな三味線を習いに行ったり、どこかのだんなが端唄を習いに行ったりするような習慣がありましたね。小さなコミュニティの中で教えたり教わったりすること、長い間に培われています。

河合 それが、ちょっと少なくなりつつあるので、残念なんです。

平野 そうですね。よくある話ですが、有名な人ならともかく、そこそこの講師をそろえ、道具や教室を用意してもうまくゆかないことが多い。整え過ぎてやると敷居が高くなってダメですね。ですから、土壌にあるそういうものを利用しながら、一緒にやるのがいいいと思います。

子どもたちの芽を引き出す

河合 金沢では、子ども向けの事業も活発に行われていますね。

平野 はい。おもに二一世紀美術館がやっている金沢の小学生を館内に集めて、とにかく遊ぶわけです。作品の前の広場

ひらの・たくお

1930年 北海道生まれ。

1953年、東京芸術大学美術学部工芸科卒業。通商産業省特許庁に審査官として入庁。その間に日本政府選海外派遣留学生として米国に派遣され、ID、GD、PDの各分野のデザインを学ぶ。帰国後、グッドデザイン商品選定（Gマーク）制度の創設を提案し原案を作成する。また、東京芸術大学、金沢美術工芸大学、女子美術大学等で長く教育にも従事した。日本デザイン功労者賞受賞。2003年4月より現職。



地域の大学として

河合 大学と地域のつながりの一つに生



疑問をもったら、その疑問の気持ちが冷める前に言ってください」と言っています。これは先生方相互間でも重要なことですし、学外に向けても進めています。

河合 先生の大学は美術・工芸、デザインですからね。やはり交流しないと、いいものは生まれませんよ。

平野 どこからどこまで美術とか工芸とか、分けられませんからね。裾を広げないと、芸術なんか生まれてこないよという話をよくするんです。

河合 実際、先生も学生も、垣根を低く

で。自分は美術館のピカソの絵の前で遊んだということを、子どものときに体験していると、大人になったときに思い出しとして先ほどのアイデンティティの双葉が出てくる。それが重要だといって、美術館長がやっています。すばらしいことで大成功しています。

河合 私も感心しました。相当大胆に作品に近づけても、子どもは絶対にいたずらしないですね。

平野 そういふときの子どもの状況を見ていると、本当に学校でも家庭でも見たことがないくらい大きな声で、使ったことのない言葉でもって遊んでいる。みんなで遊ぶということの中に、おれはこうしたいのに、おまえは押したじやないかと、けんかが生ずる。仲直りする。そういうところからテリトリーをわきまえたマナーが身につく、大切な社会性が生まれる。

それから、体でもって叫んで、歌っていくという自己表現、コミュニケーションの表現は音楽とか演劇的な芽となるものです。



「エデュケーション」という言葉は、ラテン語だったかギリシア語で、「引き出す」という意味なんだそうですね。その引き出すということが、自然にできる環境をつくりたいですね。土曜日の三時間でもいいです。

河合 それはもうすばらしいですよ。

平野 学校の先生は忙しいから、それを義理でやると、義理が子どもにすぐわかりますからね。いろいろな大学の文系理系芸術系の先生に、ボランティアとして、そういうことをやってもらう。すると子

するのいろいろな動いているんですか。

平野 ええ、動いています。金沢市長が金沢駅から美術館までを芸術のメイン通りにしようと言っていました。たくさんさんのショーウィンドウを大学の先生が飾るんです。もちろん学生も手伝います。それを教授会の人に私が、「すごいことやってくれましたね」とほめるんです。学内で大っぴらにということをやっていく。金沢は東京に比べると小さい町だから、そうした出来事の密度が高くなり全部新聞に出るので、市民もへあ、今度変わったね」と美大を評価してくれます。

アーティスト・イン・レジデンスの影響

河合 大学のアーティスト・イン・レジデンスでは、いろんな国の人が来て、一か月とか二か月、滞在するわけですか。

平野 そうです。学生は外国の著名なアーティストと一緒に仕事ができて、本当に喜びと自信ができるわけですね。そういう連中はだいたい外国に行ってコンクールに出してみたいと言っています。それは

どもは「大学の先生と一緒にだったよ」「大学の先生がこう言ってくれたよ」と親に話しますよね。すると、親も、へあ、そうか。子どもの遊びを一緒にやってくれるな」と、安心感をもってその行為を続けさせてくれるんです。

河合 大学の先生も、特に芸術をやっておられる方だったら、なまの子ともて接したら、いろいろなアイデアやヒントが絶対出てきますよ。おもしろいこと言いますからね。

平野 そうです。先生自身の心が豊かじゃないと創造活動なんかできません。自分の思ったとおりにしろという徒弟制度になっちゃだめなんです。

河合 学習がうまいこといつている限りは、相互性がありますからね。こつちも学ぶ、あつちも学ぶになりますから。

平野 ただ、垣根を取つ払ってしまおうとわけがわからなくて、低くするんです。

河合 先生のところは、大学の学科の中の垣根も低くしておられるんでしょう。

平野 ええ。入学式では「自分のコース以外の先生にも何でも聞いてください。」

何より私が奨励しているもので、入学式では「海外のコンクールやコンペとにかく出してください。一年生は一年生らしいところで、学年ごとに自由に……」と言っています。

河合 それで海外へ向けてやりますか。

平野 いや、なかなか反応が鈍いです。とにかく温室育ちですからね。ビニールハウスで育てている。

河合 それを私はぜひやってほしいんです。どうも日本の場合は、国内市場でちゃんと食えるんですよ。それは豊かではないと言えるけど、そのために温室になるんです。世界と競争しないでも、食っていられるでしょう。だから、それをもっと思い切ってやってほしいんです。

平野 とにかく海外に出て、海外のステージで暴れてほしい、それだけが望みです。才能はある。頭も悪くない。ちゃんとしたステージで、同じ時間をかけるならば、最初からそこでやるようになってもらいたいというのが、学生に対する願いですね。

河合 海外から引っ張ってくる一方で、

平野拓夫氏の主な作品（抜粋）

「キングジム Gファイル」
「テブラ」開発及びデザイン
「ホテルオークラ ロゴタイプ」
「最高裁判所 インテリアデザイン」
「インテリアプロダクトデザイン」
「株式会社日立製作所 世界初の半導体
無人化工場（武蔵工場）」の計画、提案
「住友重機械工業株式会社
サイクロトロン制御システムデザイン」
「コマツ株式会社 ラフテレンクレーン」
「株式会社日立製作所大型コンプレッサーの
40%コストダウンのためのデザイン」
「NTTインテリジェントテクノロジー
フラクタルカーペット製作」
「コダック株式会社 デジタルカメラ」
「出光石油化学株式会社 ロゴタイプ」
Gマーク受賞 487点（内、金賞5点）
ドイツIF賞受賞 5点
アメリカIR100賞受賞 1点
オランダグッドデザイン賞受賞 1点

ていただき、芸術系大学は日ごろからあちこち向いている種類の学校なので、学長もあちこち向いていましたけど、学長全部が集まって一堂に会し、長官と直に話ができて、相互に交流が行われたのは、日本の歴史上はじめてではないでしょうか。
日本全国の全学長が集まり、感激し、今後の継続を真からお願したわけです。

河合 さすが芸術大学だけあって、学長先生の一言がみんなおもしろかったですね（笑）。通り一遍ではなくて。
平野 そうそう。第二回を金沢でやらせていただきましたが、第三回が五月に開催されますが、楽しみにしています。
河合 私は本当にこの二二世紀というのは、芸術というのはすごく大事だと思っているので、芸術大学の役割というのは、これからいろいろあると思いますね。本日は本当にありがとうございました。（了）

交換したいにして、日本のものを海外に送り込むことはしておられますか。
平野 金沢市と産業界と大学と組んで考えていることがあります。北陸の産業界が中国とか東南アジアの国に負けたことが原因の一つです。ところが、日本の高級なアパレルを、向こうの金持ちが買おうようになってきたんです。
北陸は日本で繊維関係の特許を、東京、大阪に次いで多くもっています。そういう知的財産と、新しく着物を買おうとする世代の人たちが喜ぶようなデザインを付加するの、例えば、金沢の学生を中国雲南省に送って伝統的な柄で着物をデザインをする。また、中国のデザイナーにも加賀に来てもらってデザインする。おのずから育ってきた伝統と違うものが生まれてくる。そういうものを、中国のデザイナーと日本のデザイナーが共同でもってほかのところに発表しようと考えています。
河合 それはおもしろいですね。
平野 そうすると、それが呼び水になっ

て必ずアメリカ、ヨーロッパの人にも一緒にやりたいと言っていますから、日本のファッション産業をもう一回復興させようという計画しています。
河合 それはぜひ成功してほしいですね。さつきも言いましたけど、芸術だけでなく、学術もみんなそうです。日本は豊かだから、日本だけでもっているんですよ。そこをこれから打ち破っていかなければね。
ただ、日本人がそういう食える豊かさだけではだめだと、少しずつ気がつき出したんです。本当の豊かさは何かというときに芸術が絶対生きてくると思いますね。
平野 そうです。感性を大事にしていく。デジタルの世の中だけではないよというところですね。サラリーマンや主婦やリタイアした人たちが、ちよつと板にはつかないけれども陶器をやったり、歌を歌ったりする様子が見えてきています。本当の豊かさのようなものが出てきて、いくらか呼び水となって本来の日本人になつていくといいですね。



河合 自分が何かちよつとでもクリエイトしていることは大事ですよ。いやあ、本当に。金沢では、「遊び人・イン・レジデンス」といったらどうですか。そうしたら、僕、金沢に行きますよ。「遊び人・イン・レジデンス」第一号で（笑）。
芸術系大学と文化庁の交流
河合 やはり芸術大学というのは、特別な大学ではあるわけですが、おかげで文化庁と芸大の学長先生とも交流できてうれいんですが。
平野 「芸術系大学と文化庁長官との懇談会」は、去年七月に長官から呼びかけ

文化庁に勤めているのだから、少しは文化

のことに触れようと、職員に対していろいろ研修やワークショップを行ってきたが、今回は、講談の旭堂小南陵先生をお招きした。講談の歴史、その特徴などについて教えてくださったが、講談が生まれてきた元ともいえる「節談説経」の実演を聞かせていただいたのが大変ありがたかった。

おそらく、昔にお坊さんが説教を興味深くするために考え出したものと思うが、聴いてい

節談説経

文化庁の抜穴
河合隼雄

ると確かに仏法を説きつつ、講談はもちろん、落語や浪曲などの元になったのではないかと考えるようなところがあり興味深かった。今、この芸を語れる方は日本にもあまりいないことだろうし、貴重な体験をさせていただいた。旭堂小南陵先生ありがとうございました。
小南陵先生のおだてに乗って、私や寺脇文化部長、西沢芸術文化課長が、高座に座って「実演」？をしたが、この結果については割愛しておく方がよさそうである。

◆長官対談◆

〔文化人の本音〕河合雄雄文化庁長官対談
福原義春 企業メセナ協議会会長・理事長
〔長官コラム文化庁の抜六〕

◆特集◆

地域文化で日本を元気にしよう！

〔概要〕

「地域文化で日本を元気にしよう！」〔概要〕
「文化審議会文化政策部会」
「有識者提言」

〔有識者提言〕

地域から芸術で公と私のパートナーシップを鍛える……………熊倉純子

〔事例紹介〕

NPO法人STスポーツ横浜
NPO法人ふらの演劇工房
愛知県春日井市の「市民メセナ基金条例」

◆文化庁ニュース◆

平成一六年度文化庁買上優秀美術作品
国立劇場アンケート調査に見る今後の展望 ほか

編集後記

満開に咲いた桜とともに、新年度が始まりました。本号の特集「平成一七年度の文化行政の重点的な取組」はいかがでしたでしょうか？
この特集は、今年度の重点的な施策を紹介したもので、これらの施策を推進することにより、「文化力」の向上を図っていきたいと考えています。ですが、文化力の向上のためには、中央での取組だけではなく、皆さんのご協力、特に地方での取組が必要です。その取組の一環として、文部科学省、大手町・丸

◆連載◆

「いきいきミュージアム美術館博物館事業レポート」
富山県立近代美術館（富山県）

〔芸術文化の風〕
音楽祭はいかが？

〔著作権Q&A〕著作権なるほど質問箱から
どのようなものが著作物として保護されるの？

〔文化交流使の活動報告〕
クラシックバレエダンサー・デニス・マトヴィエンコ

〔伝建地区を見守る人々 伝建歳時記〕
豆田地区歳時記

〔史跡を楽しむ〕
史跡とともに暮らすまち

〔言葉をもつめる〕
手紙の文章

〔地域からの「文化力発信」〕
文化体験プログラム支援事業

〔文化人ふんかびん〕関西・関西文藝文壇で活躍する人々
関西に舞い降りた万葉の歌姫

〔風を呼ぼう、わが町に〕登録有形文化財建造物との歩み
石の町真壁のまづくり 城跡・町並文化財建造物

〔日本の伝統美と技を守る人々〕
八幡遼昌（内匠）・雅楽管絃器製作修理

〔国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法〕
「鑑金」ときく

〔文化財をめぐるパートナーシップ〕
文化財の活用とNPOのマネジメント

〔文化財の活用とNPOのマネジメント〕

文化庁月報 4月号（通巻439）

平成17年4月25日印刷・発行

編集——文化庁

〒100-8959 東京都千代田区丸の内2-5-1

発行——株式会社 ぎょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 編集 03 (3571) 2126

販売 03 (5349) 6666

URL：http://www.gyosei.co.jp

印刷所——ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 [本体514円] 送料76円

年間購読料6,480円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先

(株) ぎょうせい営業部広告課

電話03 (5349) 6657 (ダイヤルイン)

©2005 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙に再生紙を使用しております。

美術館・博物館チケットプレゼント

今月号から展覧会等のチケットプレゼントが始まりました。

今月は、

A 東京国立近代美術館工芸館

「伊砂利彦」3組（ペア）

B 京都国立近代美術館

「加守田章二展」3組（ペア）

です。ご希望の方はアンケートハガキのチケット応募欄に必要事項をご記入のうえ、5月2日(月)までにご投函ください(当日消印有効)。

*チケット発送をもって当選発表にかえさせていただきます。

文化庁では、ホームページで、文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見、文化庁月報の感想などを、ホームページのご意見欄へお寄せください。

●ホームページアドレス●

http://www.bunka.go.jp